

基本課題8 家庭生活と職業生活その他の社会における活動の両立の支援(課題17～19)

課題17 仕事と家庭・地域生活の両立支援と働き方の見直し

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課	市民窓口課所見	H24年度の審議会における意見・評価	
							評価			
34	事業所における育児・介護休業制度の普及啓発	広報・啓発活動	商工課	新潟労働局の育児・介護休業制度の情報を提供するため、ホームページをリンクさせる。	【実施対象】市民 【内容】新潟労働局の育児・介護休業制度の情報を提供するため、ホームページをリンクさせた。 また、12月13日発行の三条市勤労者福祉共済のお便りと一緒に、市民窓口課と共催で行う(財)県女性財団地域セミナー「もしも家族が要介護になったら」のチラシを勤労者福祉共済加入事業所会員(365事業所・2,835名)に配布し、啓発した。(セミナー参加者25人)	【評価理由】 計画した内容以外のことでも実施できた。	A			A
			市民窓口課	【追加】 No.31と同じ 商工課と共催で(財)新潟県女性財団地域セミナーを活用し、ワークライフ・バランス講座を開催する。	No.31とおなじ	No.31とおなじ	B			A
35	労働時間短縮についての情報提供・啓発	広報・啓発活動	商工課	(財)21世紀職業財団のホームページにリンクし、情報提供する。	【実施対象】事業主 【内容】(財)21世紀職業財団のホームページにリンクし、情報提供を行った。	【評価理由】 計画どおり実施した。	A			A

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課 評価	市民窓口課所見	H24年度の審議会における意見・評価	
38	子育て支援サービス及び保育サービスの充実	多様なニーズに応じた保育サービスの充実	子育て支援課	<p>【内容】保護者の多様なライフスタイルに対応できる保育サービスを提供するため、乳児保育や延長保育、休日の一時保育などを継続して実施する。</p> <p>平成24年4月に民営化した川通どれみ保育園の移転改築に際しては、新たに乳児保育が実施できるよう必要な支援を行う。</p> <p>また、平成25年4月から民営化する保育園(田島保育所・荒沢保育所(名下保育所統合))での生後2か月からの乳児保育及び土曜日の一日保育の実施に向け、法人との協議・調整を行うなど、更なる子育てサービス及び保育サービスの充実に努める。</p>	<p>【参加者数】 2,977人(男性1,529人、女性1,448人)※入所児童数</p> <p>【内容】 保護者の多様な保育ニーズに対応するため、乳児保育や延長保育、休日の一時保育などを継続して実施した。</p> <p>川通どれみ保育園の移転改築後(平成25年9月完成予定)新たに乳児保育を実施するため、建設に関する事務的、財政的な支援を行った。</p> <p>また、平成25年4月に民営化する保育園での乳児保育や土曜日の一日保育実施に向け法人と調整を行うなど、保育サービスの充実に努めた。</p>	<p>【評価理由】乳児保育の実施(26/28保育所(園))、延長保育(全保育所(園))で実施。</p> <p>また、公立保育所民営化についても、計画に基づき円滑に実施した。</p>	A			A
39	保育ルーム設置時のヘルパーの養成	ファミリーサポート支援事業提供会員養成講座	子育て支援課	<p>【実施時期】1月～2月</p> <p>【実施対象】市民全般</p> <p>【内容】民間団体において子どもを預かる方の資質向上を図るため、提供会員を養成するための講座を実施するもの。</p> <p>既会員等のスキルアップ研修と兼ねて実施する。</p> <p>【工夫すること】内容も講義だけでなく、事例研究を交えるなど考える場面を多くし、より実践に則したものとなるよう努める。</p> <p>【目標値】新規受講者の団体登録率:30%</p>	<p>【計画変更有り】</p> <p>【実施時期】 11月～12月</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催時期を冬から秋に変更し、参加者が参加しやすいよう配慮した。 ・11月15日～12月20日の期間中、全講座で保育ルームを設置した。 ・新規会員養成のみならず、既会員等の研修も兼ねて講座を実施した。 	<p>【評価理由】 1月末現在、参加者24人中8人が登録予定で話をしているため。</p> <p>【課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値の設定 ・ファミリーサポート事業団体にアンケートを取る等、団体登録につなげる方策を検討する。 	B			A

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課 評価	市民窓口課所見	H24年度の審議会における意見・評価	
40	子育てに関する学習機会の提供	エンジョイパパママ教室 第1コース 第2コース	子育て支援課	<p>【実施時期】隔月1回</p> <p>【実施対象】 第1コース:妊娠16～23週の妊婦と夫 第2コース:妊娠24～31週の妊婦と夫</p> <p>【内容】 ○エンジョイパパママ教室第1コース: 土曜日の午前中に開催。夫婦を対象 ・保健師講話、グループワーク(仲間作り)、実習、栄養士講話 ○エンジョイパパママ教室第2コース: 平日の夜に開催。夫婦を対象 ・外部講師による家庭教育についての講話と保健師による手続き等の情報提供</p> <p>【工夫すること】妊娠中からの子育て支援と子育て仲間を作れるように教室構成を講師とともに検討。保育ルームを設置(経妊婦も参加しやすいように)</p> <p>【目標値】両教室の初妊婦夫婦の参加率が、H23年度より3%増加(目標:26.1%)</p>	<p>【計画変更あり】</p> <p>【参加者数】 HH24年度初産婦参加率(1月時点) 第1コース:参加率27.3% 第2コース:参加率21.7% 合計:参加率24.5% 参考:H23年度初産婦参加率(1月時点) 第1コース:参加率22.9% 第2コース:参加率23.2% 合計:参加率23.1%</p>	<p>【評価理由】 初妊婦夫婦の参加率が昨年同期より1.4%アップしたが、3月末までに目標値の達成が難しいため。</p> <p>【課題等】 第2コースの参加率が伸び悩んでいるため、第2コースの内容について、DVD視聴などを加え、子育てをより身近に感じられる内容にしていきたい。</p>	B			B
		育児講座		<p>【実施時期】不定期</p> <p>【実施対象】乳幼児の保護者</p> <p>【内容】市内7か所の保育所・保育園の子育て支援センター、すまいるランドにおいて、子育てに関する知識・情報の提供等のための育児講座を実施する。</p> <p>【工夫すること】男女共同参画の視点を持ちつつ、家庭で実践できる内容を盛り込むよう努める。</p> <p>【目標値】育児講座を各施設年6回以上開催</p>	<p>【内容】 ・各施設、概ね1か月に1回程度育児講座を開催した。 ・参加者数は、各回30名程度の参加を得た。 ・内容として、栄養相談、救急法、親子エアロビクス、健康体操など多岐に渡っており、子育て中の保護者への知識、情報の普及に努めた。</p>	<p>【評価理由】 市内7か所の子育て支援センターで、年6回以上育児講座を実施した。</p>	A			

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課 評価	市民窓口課所見	H24年度の審議会における意見・評価	
40	子育てに関する学習機会の提供	しみん食育と農業のつどい	健康づくり課	<p>【実施時期】12月頃</p> <p>【実施対象】市民</p> <p>【内容】※三条まんま塾(食と農の連携協議会)に委託実施 食育に関する講演会を実施する。</p> <p>【工夫すること】女問わず参加しやすいよう、食育SATシステムで簡単食事バランスチェックの実施等、参加者が楽しめる内容を取り入れる。</p> <p>【目標値】参加者へのアンケートにおいて、「参加して気づきがあった」と回答する者の割合が80%以上</p>	<p>【実施時期】12月15日(土)</p> <p>【参加者数】100人(男性 42人、女性 58人)</p> <p>【内容】 ○講演会 演題「湘南の風に吹かれて豚を売る」 講師 株式会社 みやじ豚 代表 宮治勇輔さん ○試食の提供(みやじ豚の串カツ) ○地元農産物の紹介</p>	<p>【評価理由】 「参加して気づきがあった」と回答する者が83.3%</p> <p>【課題等】 講師に若い農業者を招き、子育て世代から食に関心を持ってもらうように企画した。しかし、30～40歳代の参加率が30%と低かったため、周知方法や企画内容を検討していきたい。</p>	A			A
40	子育てに関する学習機会の提供	家庭教育講座	生涯学習課	<p>【実施時期】6月～12月(予定)</p> <p>【実施対象】乳幼児・小学生の保護者及び子育てに関心のある方</p> <p>【内容】・家庭教育支援事業として対象を区分せず、家庭と子どもについている様々な角度から情報提供し、学んでもらう企画として講座等を開催する</p> <p>【工夫すること】参加しやすいよう、開催日・時間(土曜日・夜間)等を工夫する。</p> <p>【目標値】アンケートでの満足度「とてもよかった」・「よかった」の回答が7割以上</p>	<p>【計画変更あり】</p> <p>【実施時期】12月～1月</p> <p>【実施対象】乳幼児・小学生の保護者及び子育てに関心のある方</p> <p>【内容】 子育て事情いま・むかし～ほのぼの子育て・孫育て～ 【1回目】12月1日(土) 助産師さんから見たいいま・むかしの赤ちゃん事情(参加人数17人) 【2回目】12月16日(日) 保育士さんから見たいいま・むかしのこども事情(参加人数13人) 【3回目】1月19日(土) みんなで食べるたのしいごはん・おいしいごはん(参加人数12人)</p>	<p>【評価理由】 アンケートによる満足度の結果は、【1回目】94.0%【2回目】76.9% 【3回目】80.0% であり目標値を上回った。</p> <p>【課題等】 家庭教育に関する市民の要望を今後も分析し、ニーズにあったテーマの設定を行い、公民館事業としての役割りを明確化した事業内容に努めるとともに参加者の増加を図る。</p>	A			A

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課 評価	市民窓口課所見	H24年度の審議会における意見・評価	
41	保育ルームの設置	保育ルームの設置	子育て支援課	【実施対象】 妊婦・市民 【内容】 当課主催事業(エンジョイパパママ教室、ファミリーサポート支援事業提供会員養成講座等)について、より多くの市民が講演会や講座に安心して参加できるよう、保育ルームを設置する。 【目標値】 当課主催事業における保育ルーム設置率 100%	【内容】 ・エンジョイパパママ教室開催時に、全回保育ルームを設置した。(12人利用) ・ファミリーサポート提供会員養成講座は、11月15日～12月20日の全6回で保育ルームを設置した。(2人利用)	【評価理由】 目標値を達成できたため 【課題等】 継続実施	A			A
			生涯学習課(各公民館)	【実施時期】 6月～12月(予定) 【実施対象】 家庭教育講座に参加した乳幼児の保護者 【内容】 ・家庭教育講座を、乳幼児のいる家庭の方からも安心して受講してもらえうように、保育ヘルパーの協力により、保育ルームを設置する。	【計画変更あり】 【実施時期】 保育ルームの利用者数 【1回目】 12月 1日 10人 【2回目】 12月 16日 5人 【3回目】 1月 19日 9人	【評価理由】 申込者全員の受入を行った。 【課題等】 講座参加者で保育ルームを利用する割合は平均35%となっている。そのうち兄弟での利用も多いため、参加者の利用に対応できるよう、受入れ可能人数を保育ヘルパーと調整する必要がある。	A			A
			市民窓口課	より多くの人が安心して参加してもらえるように、各講座、フォーラム等に保育ルームを設置する。また、各課宛に市民窓口課から保育ルームの設置の依頼を予算要求の時期に行う。	各講座や講演会等を開催する場合は、保育ルームを設置している。また、予算要求時期に合わせて、各課宛に講座等の開催に当たっては、保育ルームを設置するように文書で周知した。	【評価理由】 計画どおり実施した。	A			A

課題19 家庭生活における男女共同参画の促進

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課 評価	市民窓口課所見	H24年度の審議会における意見・評価	
42	男女共同参画意識を高める家庭教育の推進	エンジョイパパママ講座第2コース	子育て支援課	<p>【実施時期】隔月1回</p> <p>【実施対象】妊娠16～23週の妊婦と夫</p> <p>【内容】土曜日の午前中に開催。夫婦を対象 ・保健師講話、グループワーク(仲間作り)、実習、栄養士講話</p> <p>【工夫すること】妊娠中からの子育て支援と子育て仲間を作れるように教室構成を講師とともに検討。保育ルームを設置(経妊婦も参加しやすいように)</p> <p>【目標値】H23年度初妊婦夫婦の参加率より3%増加(目標:26.2%)</p>	<p>【参加者数】</p> <p>H24年度初産婦参加率(1月時点)第2コース:参加率21.7%</p> <p>参考:H23年度初産婦参加率(1月時点)第2コース:参加率23.2%</p> <p>1月まで5回実施</p> <p>(初妊婦夫婦の参加率は21.7%で昨年度同時期より1.5%ダウン)</p>	<p>【評価理由】</p> <p>初妊婦夫婦の参加率が昨年同期より下回り、3月末までに目標値の達成が見込めないため。</p> <p>【課題等】</p> <p>視聴覚教材(DVD)を利用するなど、教室の内容の改善を図り、子育てが分かりやすくより身近に感じられる内容としていきたい。</p>	B			B
		家庭教育講座	生涯学習課	No.40と同じ	No.40と同じ	No.40と同じ	No.40と同じ	A		

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課	市民窓口課所見	H24年度の審議会における意見・評価	
							評価			
43	男性の家事、子育て、介護等の学習機会の提供 重	認知症サポーター等養成事業	高齢介護課	【実施時期】 平成24年4月～平成25年3月 【実施内容】 認知症サポーター養成講座の実施 ・認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を見守り、支援する「認知症サポーター」を養成する。 講師: キャラバン・メイト 【工夫すること】 男女問わず認知症の人やその家族の気持ちを理解し、地域で支える必要があるということを伝える。 【目標値】 平成24年度サポーター数500人	【計画どおり実施】 【内容】 認知症サポーター養成講座の実施。 講師: キャラバン・メイト 【参加者数】 695人(男性194人、女性501人)	【評価等】 目標値を達成できた。講座を通じて徐々に認知症への理解が広がってきている。 【課題等】 今後も、企業や学校への働きかけを積極的に行って行きたい。	A			A
43	男性の家事、子育て、介護等の学習機会の提供 重	男の料理教室	健康づくり課	【実施時期】 通年 【実施対象】 市民 【内容】 ○メンズクッキング(三条市食生活改善推進委員協議会主催):11月6日、29日 ○男の料理教室(第一中学校区及び第三中学校区食推地区活動):9月29日、10月23日(一中地区)、6月6日、12月頃(三中地区) 【工夫すること】 男性が参加しやすいように簡単メニューにするとともに、旬の地元食材を使った家庭で取組やすいものにする。 【目標値】 参加者へのアンケート調査において、「参加して、家庭でも料理を作ってみようと思った」と回答する者の割合が80%以上	【参加者数】 82人(男性82人、女性 0人) 【内容】 ○メンズクッキング(三条市食生活改善推進委員協議会主催) 【日程】 11月6日 参加者18人、11月29日 参加者16人 ○男の料理教室(第一中学校区及び第三中学校区食推地区活動) 【日程】 (一中地区)9月29日 参加者16人、10月23日 参加者19人(三中地区)6月6日 参加者13人	【評価理由】 「家庭で料理を作ってみようと思った」と回答する者の割合が81.7% 【課題等】 今年度は手軽な献立を中心としたため、参加者からは家庭でも作ってみたいという声が多かった。今後も手軽な献立を中心に計画したい。	A			A

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課 評価	市民窓口課所見	H24年度の審議会における意見・評価	
43	男性の家事、子育て、介護等の学習機会の提供 重	男の料理教室	生涯学習課 (栄公民館)	【実施時期】平成24年9月～平成24年12月の第3木曜日 【実施対象】栄地区に在住・在勤の男性 【内容】・普段料理を作る機会の少ない男性が、スイーツ作りをとおして家庭での料理作りへの機会を促進するとともに、受講生同士の交流を図る。 ・定員10人	【計画変更有り 追加分】 【実施時期】平成24年9月～平成24年12月の第3木曜日 【実施対象】栄地区に在住・在勤の男性 【参加者数】10人(男性10人) 【内容】9/20 水ようかん・じょうよかん 10/18 フルーツケーキ・麩のフレンチトースト 11/15 サクサクきな粉クッキー・アメリカンクッキー 12/20 フルーツロールケーキ	【評価理由】アンケート満足度が「大変よかった」「よかった」が100%であり、家庭で料理をしてみようという回答が75%以上であった。	A			A
43	男性の家事、子育て、介護等の学習機会の提供 重	男の料理教室	生涯学習課 (大崎公民館)	【実施時期】平成24年4月～12月(全8回・8月休み) 【実施対象】大崎・保内地区の成人男性 【内容】・家庭で活用できる料理の知識・技術を習得し、旬の野菜を使った簡単料理を学ぶ。また、共同作業から交流を深め仲間づくりも図る。 ・定員12人 【工夫すること】限られた時間内での作業の為、一つでも覚えられるようにゆとりをもって作る事ができる料理と品数を講師と協議する。 【目標値】事後アンケートをとり、家庭で作った人が50%以上	【参加者数】12人(男性12人) 【内容】 4月 塩鮭チャーハン、ひじきのサラダ、味噌汁(11人) 5月 筍ご飯、五目味噌煮、姫皮の梅酢和え、みそ風味パン(12人) 6月 アスパラガスの牛肉巻きフライ、野菜サラダ、ミネストローネ、胡麻だれかけ豆腐(11人) 7月 鮎のムニエル、南瓜のマヨネーズサラダ、ミョウガと麩の味噌汁(11人) 9月 秋刀魚の当座煮、ごぼうのサラダ、プリン風スープ(10人) 10月 栗ごはん、天ぷら、味噌汁、人参ケーキ(8人) 11月 酢豚、里芋と大根の味噌汁、スイートポテト(10人) 12月 肉昆布巻き、胡麻豆腐、昆布大根、ポテトサラダ、大根とチクの酢味噌和え、すまし汁、クッキー(10人)	【評価理由】アンケートの結果、教室で習った料理を70%の人が家庭で作ったことがあると答えていたので概ね達成できたと思う。 【課題等】料理の基本を習いたい要望があった為、内容の見直しが必要。	A			A